

3 「上田市 飯沼整備利用地域」 開かれた里山の整備・利用計画について

(1) 里山整備利用地域の名称等

名 称	上田市 飯沼整備利用地域
協議会	飯沼自治会 里山環境整備プロジェクトチーム
認定年月日	平成30年10月25日
認定面積	207.6 ha



(2) 活動実績等

① 里山整備利用地域の特徴

当里山整備利用地域の森林の樹種構成はアカマツが66%、広葉樹（コナラ・クヌギ等）が31%であり、かつては、住宅用建築材や生活用薪炭木、農作に必要な堆肥の採取場等として利用、日常生活の中で手入れがされ、森林の環境が守られてきた里山である。また、まつたけの産地として知られていた。しかし、現在は、日常生活の変化により住民が里山に入らなくなり、里山と人との絆が途切れ、放置され手入れが遅れた森林となっていた。

このようなことから、飯沼自治会の下部組織として地元の有志で組織化された「里山環境整備プロジェクトチーム」が中心となり、里山の整備や利活用により、途切れかけた里山との絆の再構築を図るため活動を開始した。

② 里山整備利用地域における協議会の活動状況等

- ・ 松林保全のため、枯損木の伐採をして、抵抗性アカマツの植栽を実施
- ・ 伐採した松くい虫被害木を有効利用して、積み木を作成、地元の保育園へ贈呈
- ・ 石尊山の里山公園整備（遊歩道、展望台の整備など）
- ・ 薪、きのご原木の生産
- ・ 沢筋の土砂流出を防止するため、丸太柵の設置
- ・ 里山に生息するイノシシ等から農作物を守るための防護柵の設置等



里山公園林床整備



薪材の生産



抵抗性アカマツの植栽

③ 県民協働による里山の整備・利用事業(一般)の実績

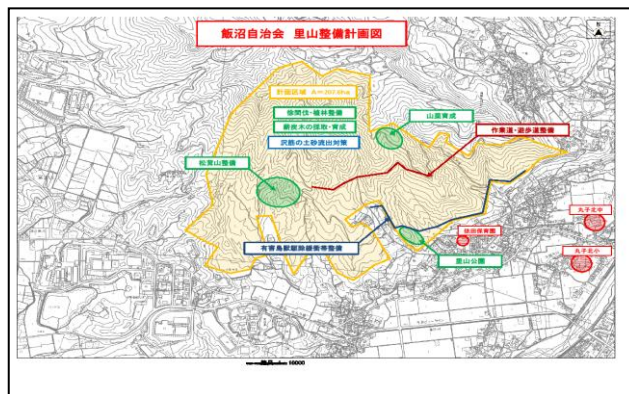
単位：万円

活用実績・計画	R元	R2	R3	R4	R5	計
里山整備利用地域活動推進事業	20	20	50.3			90.3
里山資源利活用推進事業			67.7		44.8	112.5

(3) 「開かれた里山」としての整備・利用の方針等

① 「開かれた里山」の対象とする 里山整備利用地域の面積及び位置

面積： 207.6ha



② より多くの県民等が広く親しめる「開かれた里山」づくりの考え方

従来の活動方針に基づき、里山の整備や利活用を継続するが、加えて、プロジェクトチームや自治会の役員だけでなく、より多くの人に活用してもらいながら、途切れかけた里山との絆の再構築を図るため活動を実施する。

③「開かれた里山」における森林整備の方針及び協議会の活動

○ 住民が集い、憩い・癒し・学びの場づくり

松枯れにより荒廃が進む石尊山の森林を、里山公園として住民の健康増進及び憩いの場として、保育園児、小学児童等には、里山体験の場として整備を行う。

- ・遊歩道や展望台の整備、サクラ等の花木や紅葉樹の植栽、山野草を植栽、野鳥観察会・昆虫採集などが楽しめるような森林の整備、しいたけ原木・薪の提供、花見会・健康ウォーキングなどの企画・開催

○ 豊かな自然に育つ里山の資源をフル活用

キノコや山菜はもとより、薪や炭・木材製品など里山資源の活用の再構築を図り、地域内循環を図る。

- ・伐期を迎えたナラ・クヌギでキノコの原木や薪を生産し、自治会住民希望者へ提供

(4) 県民協働による里山の整備・利用事業(「開かれた里山」)の整備・利用の全体計画

単位：ha、万円

計画内容	R5	R6	R7	R8	R9	計
「開かれた里山」における森林整備 計(ha)	2.5	6.5	6.5	4.5	4.5	24.5
花木等の植栽(ha)(里山公園整備)	2	2	2			6
下刈り(ha)(里山公園整備及び松茸山保全)		4	4	4	4	16
その他整備(きのこ原木・薪材の採取)(ha)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	2.5
「開かれた里山」における 地域活動推進事業	15	15				30
「開かれた里山」における 資源利活用推進事業		37.5	37.5			75

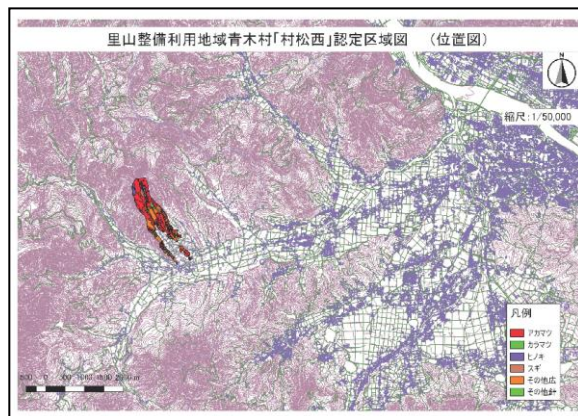
(5) 「開かれた里山」における県民等の利活用計画人数

計画の内容	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計
イベント等による利活用計画人数(人)		20	30	30	30	30	140
イベント以外の利活用計画人数(人)	50	100	150	200	200	200	900
合計(人)	50	120	180	230	230	230	1,040

4 「青木村 村松西地区整備利用地域」 開かれた里山の整備・利用計画について

(1) 里山整備利用地域の名称等

名 称	青木村 村松西地区整備利用地域
協議会	村松西地区里山整備利用推進協議会
認定年月日	平成31年3月19日
認定面積	95.46 ha



(2) 活動実績等

① 里山整備利用地域の特徴

当里山整備利用地域の森林構成は、アカマツを主に針葉樹が約80%、ナラ、コナラなどの広葉樹が約20%となっている。また地域の中にはかつて蚕の卵の保存施設であった風穴や、子壇嶺岳の登山道がある。

林業研究グループ「こまゆみ遊林会」を核として、平成31年（令和元年）に青木村（建設農林課）、上小森林組合青木支所、西地区共有林組合を加えて発足した。森林資源の有効活用（薪材および茸原木）とぼう芽、実生による自然再生を目指して活動している。

② 里山整備利用地域における協議会の活動状況等

- ・ 安全教育・講習会の実施（チェーンソー等の使用方法、伐倒技術、かかり木処理など）
- ・ 薪材の生産
- ・ 作業道の補修
- ・ ぼう芽更新によりナラ林の更新、経過観察
- ・ シカ被害対策防護ネット設置
- ・ 整備・利用地域以外の里山整備の支援 等



薪材の生産



作業道の補修



シカ被害対策 ネット設置

③ 県民協働による里山の整備・利用事業(一般)の実績

単位：万円

活用実績・計画	R元	R2	R3	R4	R5	計
里山整備利用地域活動推進事業	24	38.7	36.7			99.4
里山資源利活用推進事業		94.9				94.9

(3) 「開かれた里山」としての整備・利用の方針等

① 「開かれた里山」の対象とする里山整備利用地域の面積及び位置

面積： 95.46ha

位置： 里山整備利用地域 全域

② より多くの県民等が広く親しめる「開かれた里山」づくりの考え方

- ・地域住民の里山整理利活用のモデルとなるように、ナラ林の伐採、更新、薪などの生産の方法について、ナラ林を継続的に整備し利用していくことの技術・知識の研修及び安全研修等の場として一般に開放する。
- ・整備利用地域内にある村松の風穴は村の産業史跡に指定されている。また、子壇嶺岳の登山道がとおっていることから、風穴までの作業道・遊歩道及び登山道の補修等により保全をして、村内外からの見学者が里山を活用しやすいようにする。

③「開かれた里山」における森林整備の方針及び協議会の活動

協議会では「育てて、伐って、使う『森林循環』」を基本方針としている。

薪材・葎原木の伐採（伐って）、薪ストーブの燃料および葎原木へ加工（使う）、伐採後に切り株からぼう芽更新したナラを下刈りなど行い育てるとともに、シカの食害防止ネットを設置し（育てる）ている。

青木村では、薪の需要が高まっており、協議会のメンバー以外でも薪生産や里山整備に関心を持つ方が増えていることから、当里山整備利用地域をフィールドと開放し、ナラ林の整備、更新・保育の方法、作業道の補修などの技術的な研修の場とするとともに、伐倒技術の安全講習場としてもしてフィールド提供することにより、「開かれた里山」としての利用を進める。

また、一般の方が入りやすい里山とするために、整備利用地域内にある登山道や遊歩道、作業道の補修や維持管理を行っていく。

(4) 県民協働による里山の整備・利用事業（「開かれた里山」）の整備・利用の全体計画

単位：ha、万円

計画内容	R5	R6	R7	R8	R9	計
「開かれた里山」における森林整備 計(ha)	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	1.8
その他整備(薪材の採取)(ha)	0.2					0.2
下刈り(ha)		0.4	0.4	0.4	0.4	1.6
付帯施設等整備(作業道・遊歩道補修し整備)(m)	50	50	50	50	50	250
「開かれた里山」における 地域活動推進事業	38	42				80
「開かれた里山」における 資源利活用推進事業						0

(5) 「開かれた里山」における県民等の利活用計画人数

計画の内容	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計
イベント等による利活用計画人数(人)		5	5	10	10	10	40
イベント以外の利活用計画人数(人)	5	10	20	20	20	20	95
合計(人)	5	15	25	30	30	30	135

